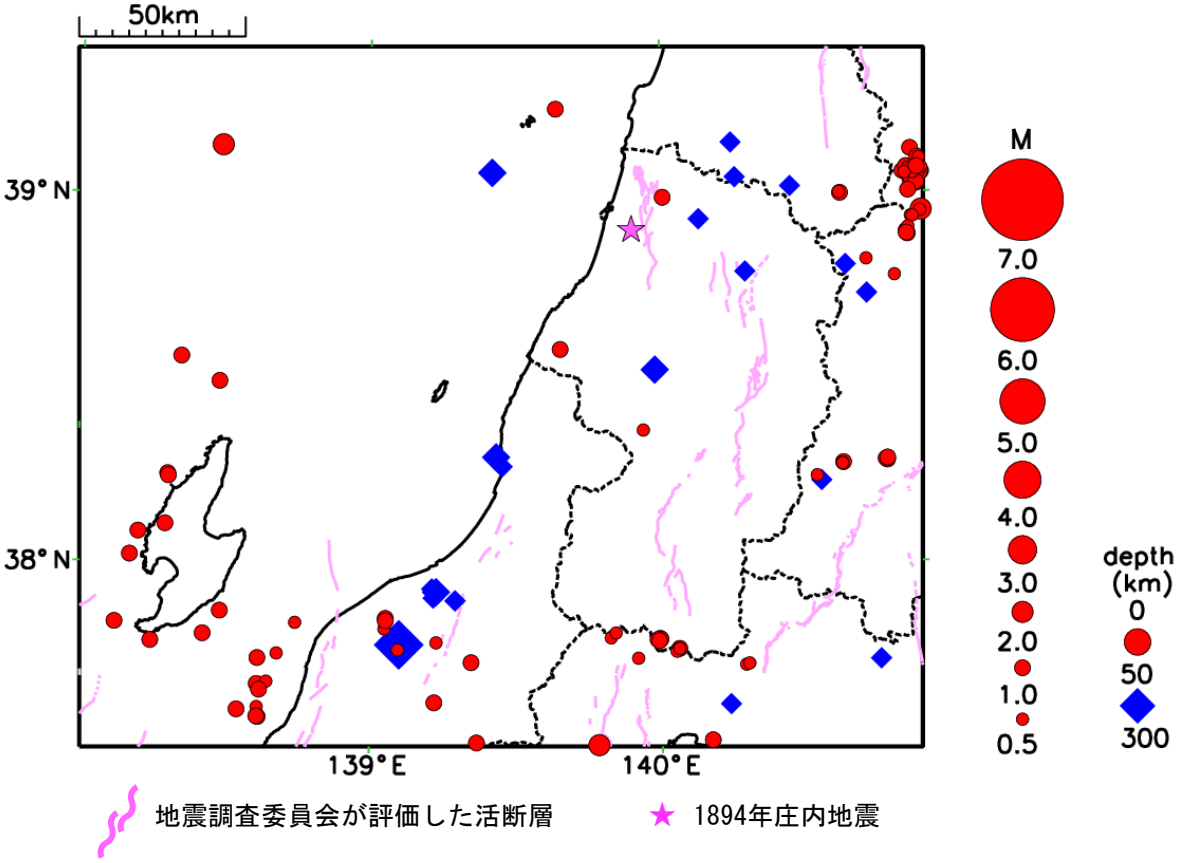
山形県月間地震概況（2026年10月）

山形地方気象台

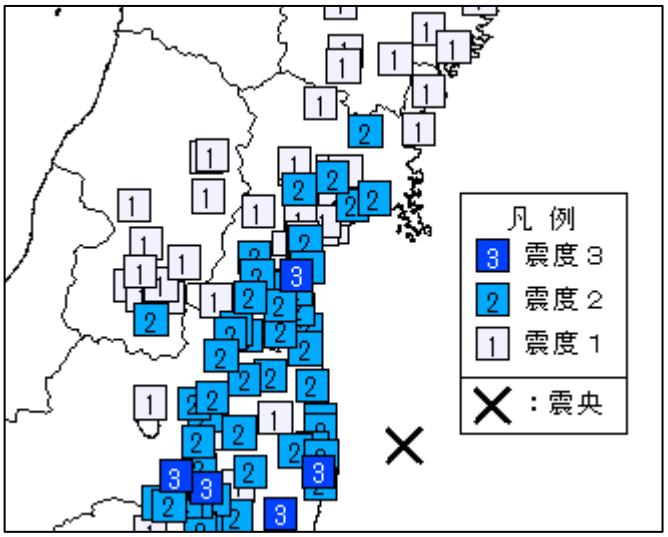
今期間（10月１日～31日）の震央分布図



【概況】

期間中に県内で震度1以上を観測した地震は5回（前期間0回）であった。このうち、県内で震度3以上を観測した地震は0回（前期間0回）であった。

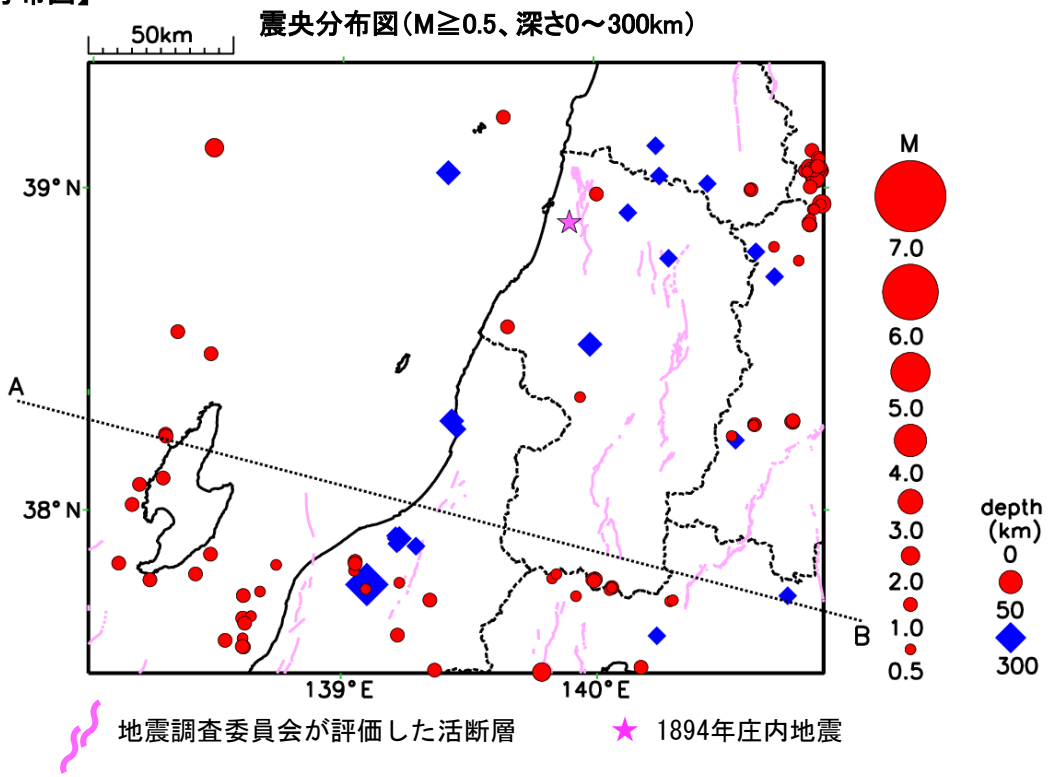
27日09時25分に福島県沖の深さ59kmでM4.6の地震が発生し、宮城県岩沼市、福島県いわき市、天栄村、玉川村、楢葉町で震度3を観測したほか、東北地方および茨城県、栃木県で震度2～1を観測した。県内では米沢市で震度2を観測するなど、震度2～1を観測した（右図）。この地震は太平洋プレート内部で発生した。



27日09時25分に福島県沖で発生した地震（M4.6）の震央（×）と市町村別震度

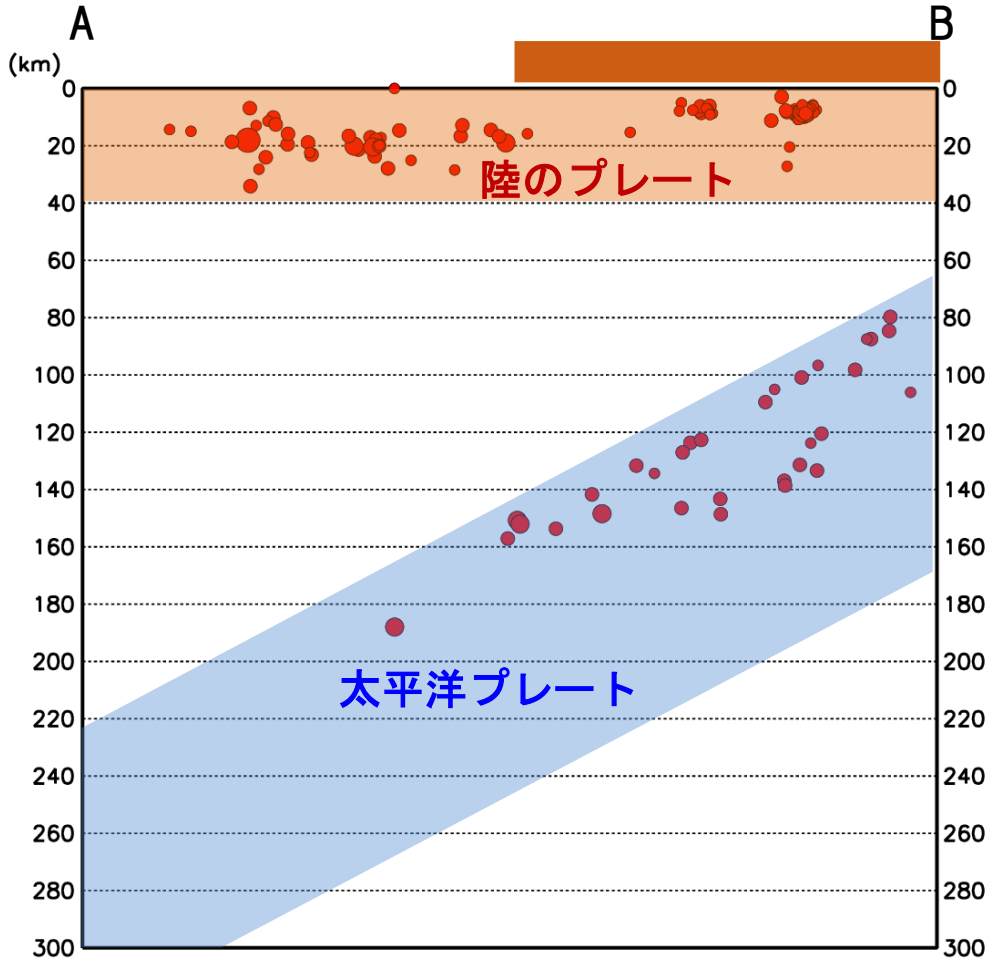
※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「 M 」として表記している。
※山形県の各地の震度の詳細は、別紙「山形県で震度１以上を観測した地震の表」を参照。なお、震源要素等は、再調査により変更することがある。

【震央分布図】



【断面図】

断面図は震央分布図内の震源を直線A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

山形県で震度１以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間　2026年10月１日～2026年10月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2026年10月02日02時17分	三陸沖	39°51.5'N	143°10.0'E	18km	M5.1
山形県　震度１　：酒田市飛鳥＊　中山町長崎＊					
2026年10月24日01時07分	岩手県沖	40°18.8'N	142°45.2'E	17km	M5.1
山形県　震度１　：中山町長崎＊					
2026年10月25日11時09分	小笠原諸島西方沖	27°46.7'N	139°55.7'E	507km	M6.8
山形県　震度２　：中山町長崎＊					
震度１　：上山市河崎＊　村山市中央＊　天童市老野森＊　白鷹町荒砥＊					
2026年10月27日09時25分	福島県沖	37°23.5'N	141°26.4'E	59km	M4.6
山形県　震度２　：米沢市林泉寺＊					
震度１　：上山市河崎＊　東根市中央＊　西川町大井沢＊　尾花沢市若葉町＊　大石田町緑町＊ 米沢市駅前　米沢市アルカディア　米沢市金池＊　長井市本町＊　南陽市三間通＊ 高畠町高畠＊　山形川西町上小松＊　白鷹町黒鴨　白鷹町荒砥＊　飯豊町椿＊					
2026年10月29日00時07分	千葉県北東部	35°43.3'N	140°42.9'E	52km	M5.5
山形県　震度１　：山辺町緑ケ丘＊　中山町長崎＊					

（注）地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。
　　各地の震度は山形県のみを示し、＊は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

異常震域について

10 月 25 日、小笠原諸島西方沖を震源とする深さ 507km の地震（M6.8）が発生し、東北地方では震度 2～1 の特徴的な震度の分布を観測しました（図１）。

一般に、地震の揺れは震源に近い場所ほど強く、遠い場所ほど弱くなります。しかし、深い場所で発生する地震（深発地震）では震源より離れた場所でも揺れが強くなることがあります。このような現象は「異常震域」と呼ばれています（図１，２）。異常震域の発生には、地震波を伝える性質の異なる岩盤が地球内部に分布していることが関係しています。

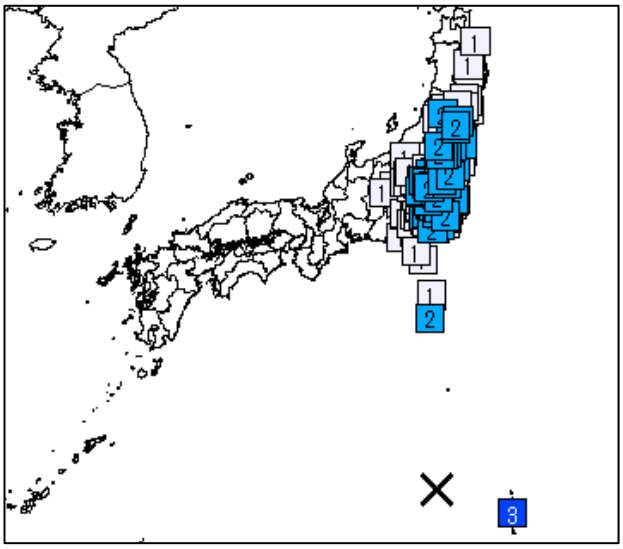


図１　2026 年 10 月 25 日に小笠原諸島西方沖で発生した地震の震度分布図（M６.８、震源の深さ 507 km）

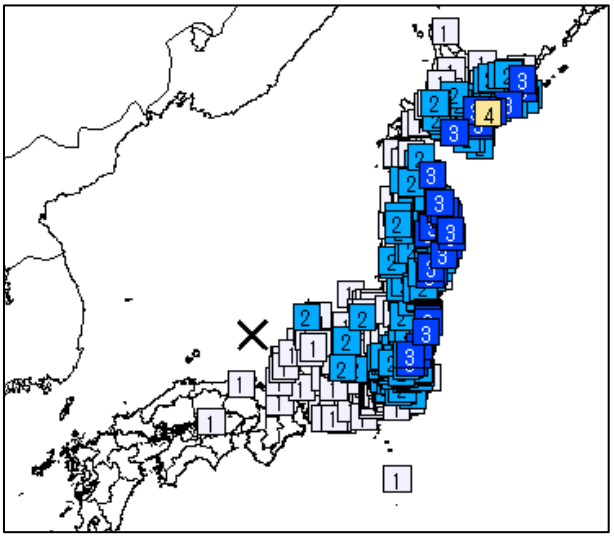


図２　2007 年７月 16 日に京都府沖で発生した地震の震度分布図（M６.７、震源の深さ 374 km）

陸のプレートより下では地震波が減衰しやすいのですが、その下に沈み込んだ海洋プレートは、地震波を大きく減衰させずに伝える性質を持っています。

東北地方では、太平洋側から日本海側に向かって陸のプレートの下に、海洋プレートが沈み込んでいます。沈み込んだ海洋プレートの深い場所で地震が発生すると、海洋プレートを伝わる地震波は大きく減衰されずに伝わるため（図３）、震源の直上（震央）付近よりも離れた場所で揺れが強くなります。このため、震央付近よりも太平洋側の方で震度が大きくなる「異常震域」となることがあります。

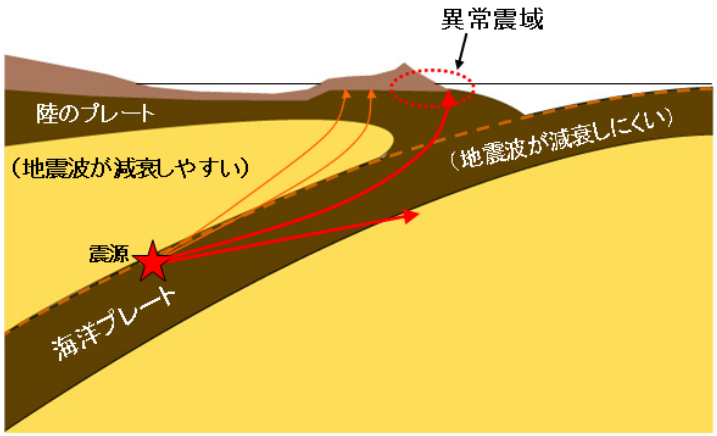


図３　海洋プレートの深い場所で地震が発生した際の地震波の伝わり方

異常震域が発生するような深発地震では、地震の規模が大きい場合などに震源から離れていてもより広い範囲で強く揺れることがあることに留意が必要です。